

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No322

(新著の紹介)

この10年間で発達心理学の教科書はどう変わったか？
—改訂版新著『問いからはじめる 発達心理学』より—
坂上裕子先生（青山学院大学教育人間科学部 教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



坂上裕子

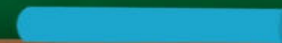
さかがみ ひろこ

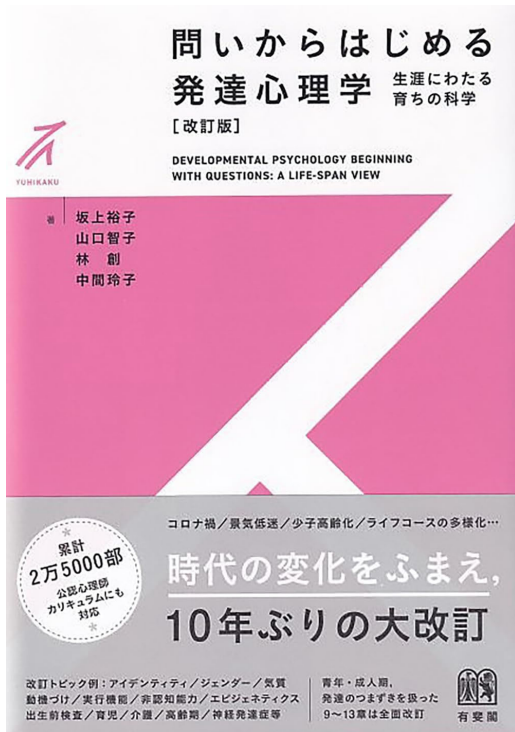
青山学院大学教育人間科学部心理学科・教授
臨床発達心理士・公認心理師

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。
博士（教育学）。

『子どものこころの発達がよくわかる本』（監修）
（講談社，2024）

『新乳幼児発達心理学〔第2版〕子どもがわかる
好きになる』（共著）福村出版，2023）など





坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子 (著) 『問いからはじめる発達心理学 -- 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣 ストゥディア (2024年12月刊行)

- 序章 ヒトとして生まれ，人として生きる
- 第1章 発達するとはどういうことか
- 第2章 生命の芽生えから誕生まで
- 第3章 見て・さわって・感じる——赤ちゃんがとらえる世界
- 第4章 他者との関係性を築く——コミュニケーションと人間関係の発達
- 第5章 「いま」「ここ」をこえて——言語と遊びの発達
- 第6章 自分を知り，自分らしさを築く——関わりの中で育まれる自己
- 第7章 関わりあって育つ——仲間の中での育ち
- 第8章 思考の深まり——学校での学び
- 第9章 子どもからの卒業
- 第10章 大人になるために
- 第11章 関わりの中で成熟する
- 第12章 人生を振りかえる
- 第13章 発達は十人十色

——発達におけるつますきをどう理解し支えるか

それではご覧ください

著書紹介

坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子(著)

問いからはじめる 発達心理学
生涯にわたる育ちの科学 改訂版

有斐閣ストゥディア (2024年10月発売)

簡単な自己紹介

坂上 裕子 (青山学院大学教育人間科学部心理学科教授)

専門は、発達心理学 (臨床発達心理士・公認心理師)

- ・乳幼児期の社会情緒的発達 (自他理解や人間関係の発達)
子育て支援 (発達支援)、子育て支援などが研究テーマ
- ・30年来、保育の現場や親子が集う現場など、生活の場において
乳幼児や親の発達の姿を捉えることに注力
- ・大学では、学部生・院生を対象に講義や研究指導
その他、保育者向けの研修会講師、発達支援の現場でのSV

問いからはじめる 発達心理学

生涯にわたる
育ちの科学

[改訂版]

DEVELOPMENTAL PSYCHOLOGY BEGINNING
WITH QUESTIONS: A LIFE-SPAN VIEW



YUHIKAKU

著
坂上裕子
山口智子
林 創
中間玲子

コロナ禍/景気低迷/少子高齢化/ライフコースの多様化…

累計
2万5000部
公認心理師
カリキュラムにも
対応

時代の変化をふまえ、
10年ぶりの大改訂

改訂トピック例：アイデンティティ/ジェンダー/気質
動機づけ/実行機能/非認知能力/エピジェネティクス
出生前検査/育児/介護/高齢期/神経発達症等

青年・成人期、
発達のみずきを取った
9~13章は全面改訂



有 交 関

- 発達心理学の概説書
- 初版は2014年（累計25000部）
- 10年ぶりの大改訂
- ヒト・人の一生涯 (life-span)
にわたる発達を扱った本
- 想定読者は学部 of 専門課程～

「発達心理学」とは

一般の人が想像する内容

- ・子どもの成長、発達を扱う
- ・発達=何かができるようになること
- ・学生の中には、
発達心理学=発達障害
の授業と捉えていた者も

発達心理学で扱う内容

- ・胎児からおとな、死に至るまでの発達を扱う
- ・発達=獲得・喪失、変化・不変の両方が含まれる
- ・多数派の発達（定型発達）と少数派の発達を扱う

本の章立て

序章 ヒトとして生まれ, 人として生きる

第1章 発達するとはどういうことか

第2章 生命の芽生えから誕生まで

第3章 見て・さわって・感じる

—赤ちゃんがとらえる世界

第4章 他者との関係性を築く

—コミュニケーションと人間関係の発達

第5章 「いま」「ここ」をこえて

—言語と遊びの発達

第6章 自分を知り, 自分らしさを築く

—関わりの中で育まれる自己

} 発達という概念・現象

} 胎児期

} 乳児期・幼児期

第7章 関わりあって育つ
—仲間の中での育ち

第8章 思考の深まり
—学校での学び

第9章 子どもからの卒業

第10章 大人になるために

第11章 関わりの中で成熟する

第12章 人生を振りかえる

第13章 発達は十人十色
—発達におけるつまずきを
どう理解し支えあうか

児童期（学童期）

青年期
成人初期

成人中期（中年期）
成人後期（高齢期）

「発達」という現象

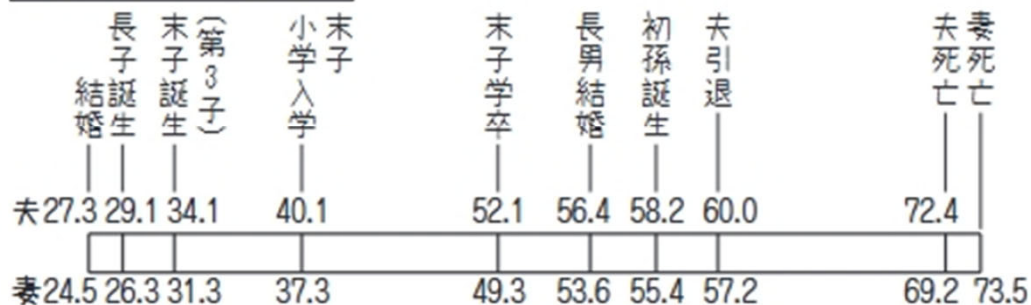
- ・発達心理学は、生物として生まれた「ヒト（ホモ・サピエンス）」が社会や文化をまとった「人」として、他者と関わりながら育ち、育てられ、次の世代を育み、死に至るまでの、心の発達の過程を考究する学問である（序章）
- ・かつての発達観：発達とは「子どもが大人になること」、「何かができるようになる」こと【成長モデル】
- ・現在の発達観：発達は成長（獲得）と衰退（喪失）が結びついて生じるダイナミックなプロセスであり、個人の環境への適応能力の変化である【成熟モデル、熟達モデル】（第1章）。

☆発達は、生物学的（遺伝子）に規定された現象であるが、同時に、社会的（環境）影響を大きく受けている
・・・時代や文化によって異なる側面がある

☆時間にともない展開される
上昇方向・下降方向の変化（獲得と喪失）
変化しないこと（停滞）も含まれる

☆発達の各時期にその時期ならではのテーマがあり、異なる世代の者同士が互いの発達に影響を与え合っている

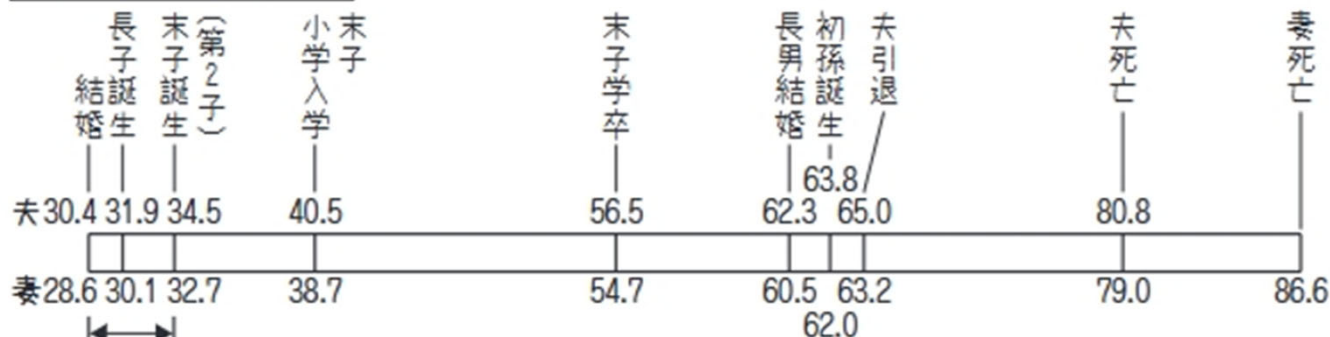
1961 (昭和 36) 年



出産期間 (6.8 年)

← 子ども扶養期間 (25.0 年) →

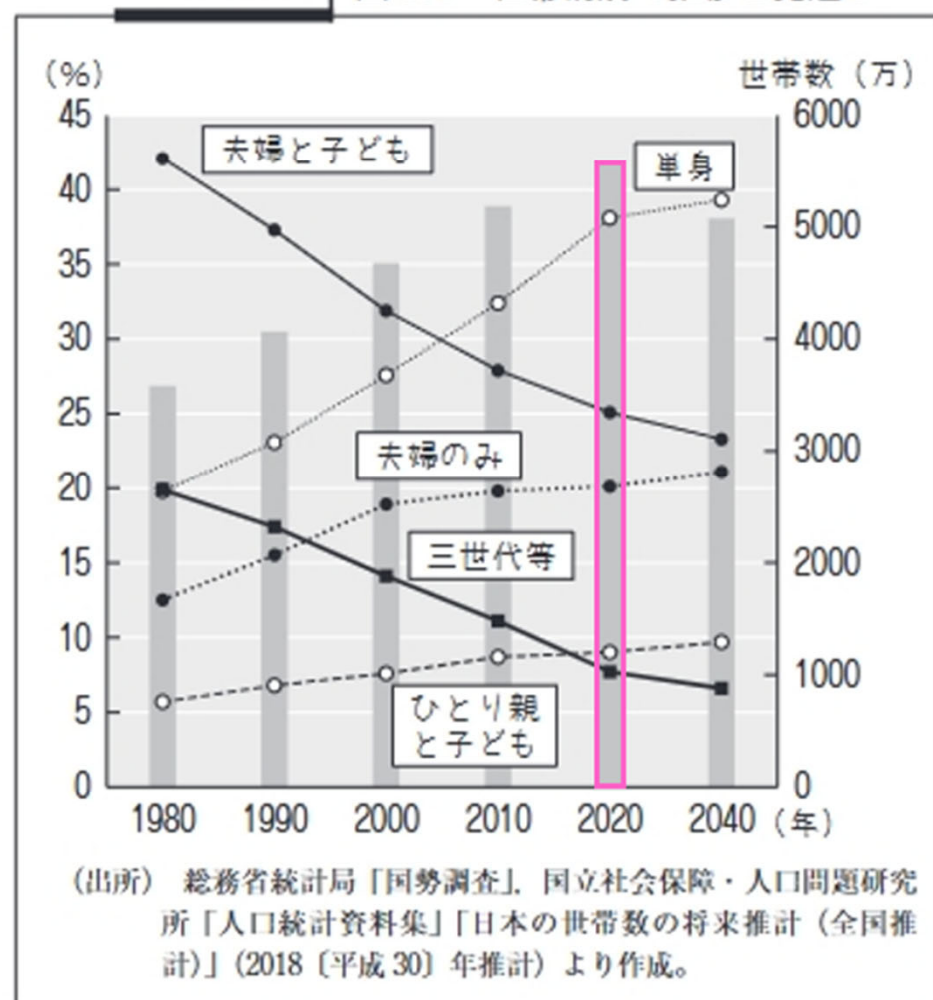
2009 (平成 21) 年



出産期間 (4.1 年)

← 子ども扶養期間 (22.6 年) →

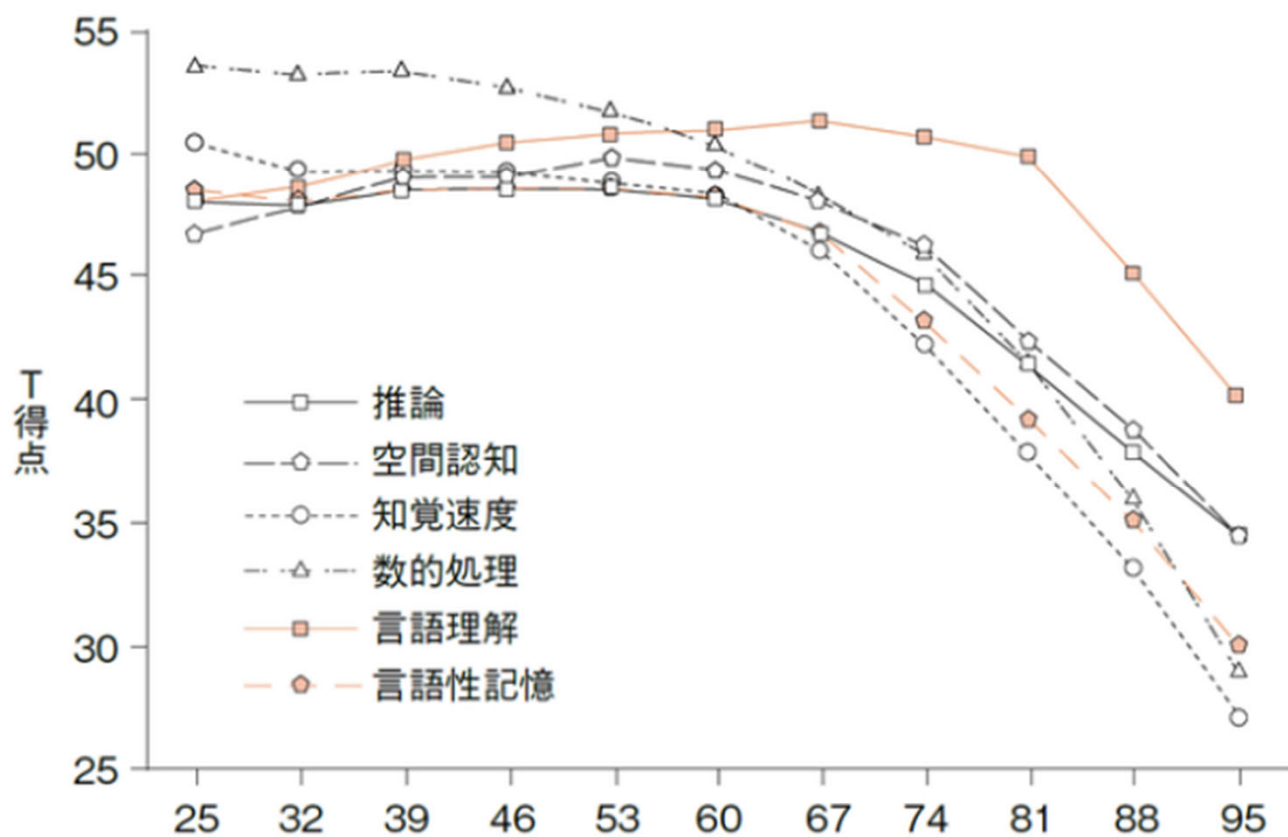
CHART 図 0.1 世帯構成の推移と見通し



☆生物学的（遺伝子）に規定された現象であるが、社会的（環境）影響を大きく受ける
・・・時代や文化によって異なる側面がある

☆時間にともない展開される
上昇方向・下降方向の変化（獲得と喪失）
変化しないこと（停滞）も含まれる

☆発達の各時期にその年代ならではのテーマがあり、異なる世代の者同士が互いの発達に影響を与え合っている



縦断研究による知能の加齢変化 (Schaie, 2013)

<https://www.tyojyu.or.jp/net/topics/tokushu/koureisha-shinri/shinri-chinouhenka.html>

認知機能の加齢変化（縦断解析）：日本人のデータ

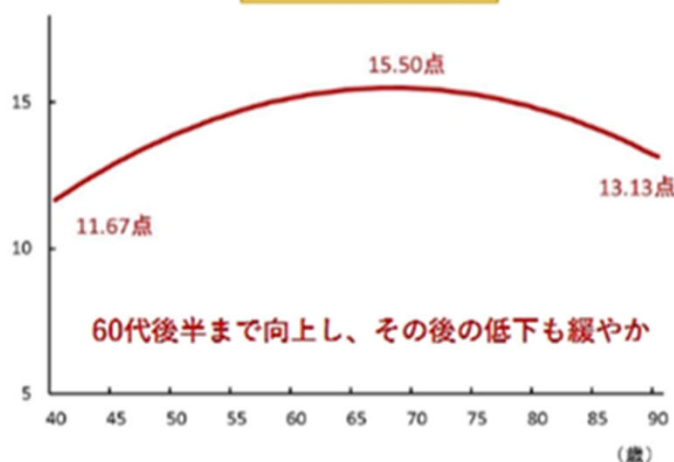
ウェクスラー成人知能検査改訂版簡易実施法

知識課題	経験や学習による知識の量
符号課題	処理や反応の速さと正確さ

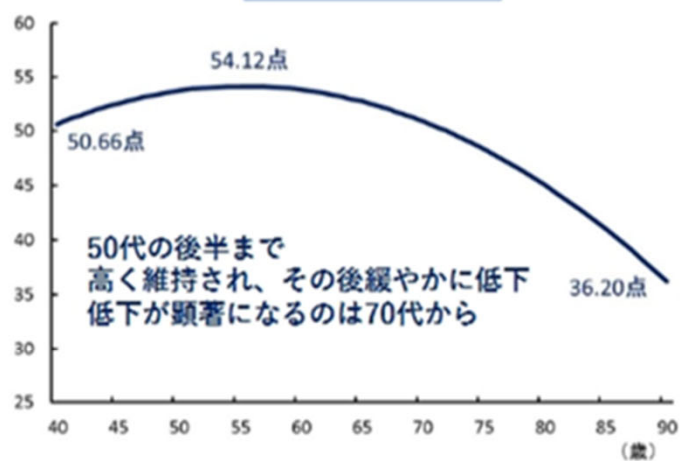
結晶
流動

●第1次～第7次調査に1回以上参加した3975名
（初参加時年齢 40歳～79歳）
固定効果として年齢（各時点）・年齢×年齢・性別・変量効果
として個人の切片と傾きを投入した線形混合モデルにより検証

知識（結晶性知能）

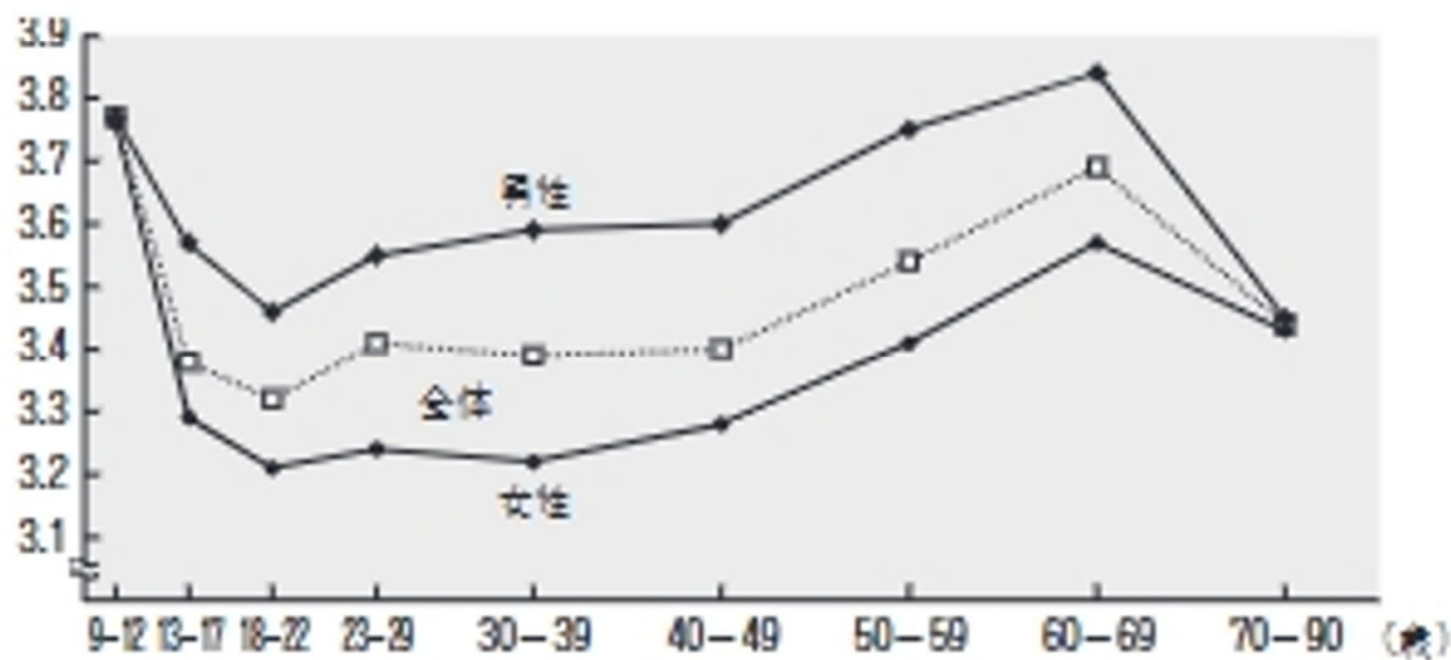


符号（流動性知能）



CHART

図 9.3 性別、自尊感情の加齢変化



(注) 自尊感情の取りうる範囲は1-5点。

(出所) Robins et al, 2002 より作成。

☆生物学的（遺伝子）に規定された現象であるが、社会的（環境）影響を大きく受ける
…時代や文化によって異なる側面がある

☆時間にともない展開される
上昇方向・下降方向の変化（獲得と喪失）
変化しないこと（停滞）も含まれる

☆発達の各時期にその年代ならではのテーマがあり、異なる世代の者同士が互いの発達に影響を与え合っている

CHART 表 0.2 エリクソンによる発達段階と心理・社会的危機

	発達段階	心理・社会的危機	重要な関係の範囲	基本的強さ
I	乳児期	基本的信頼 対 基本的不信	母親的な人物	希望
II	幼児初期 (幼児前期)	自律 対 恥、疑惑	両親的な人物	意志
III	遊戯期 (幼児後期)	自主性 対 罪の意識	家族	目的
IV	児童期	勤勉 対 劣等感	近隣、学校	コンピテンス
V	青年期	アイデンティティ 対 アイデンティティ拡散	同年代の集団・他者集団 リーダーシップのモデル	忠誠
VI	若い成人期 (成人初期)	親密と連帯 対 孤独	パートナー（友情、性愛、 競争、協力）	愛
VII	成人期 (成人中期)	生成継承性 対 停滞	仕事における分業 家庭における分担	世話
VIII	老年期 (成人後期)	統合 対 絶望	人類、私の種族	英知

(注) ・() は筆者による補足。

・「基本的強さ」とは危機を乗り越えることによって獲得される「強さ」を指す。

(出所) エリクソン、2001より作成。

初版の編集会議で(2014年頃)

- ・子どもに興味・関心がある学生が減っていない？
—これから結婚、子育てをする学生に向けて何をどう伝えようか 子どもの面白さ、発達の面白さを伝えたい
- ・おとなの発達をしっかりと扱ったテキストが意外に少ない
- ・単に発達心理学の理論や知見を伝えるだけではなく、自分のこと、周りの人に関わることとして発達という現象を捉えてもらうきっかけを提供したい

初版の出版から時間を経て・・

テキストで扱っている現象に関連して

研究の進展や時代変化にともなう、新たな概念・知見の出現
ライフイベントに関する変化

例) 出生前検査、エピジェネティクス(遺伝のメカニズム)、

レジリエンス、実行機能の発達、青年期の脳の発達、

ライフコースの多様化(特に女性)、男女共同参画、

育児、介護の社会化

神経発達症(神経学的少数派)、支援についての考え方

- ・心理の国家資格（公認心理師）の誕生
 - 公認心理師カリキュラムで発達心理学が必須科目となる
- ・執筆者が現場で体感する、子どもの発達や親子の関わりに関する時代的な変化
- ・執筆者自身のライフステージの変化や、特定のライフイベントの経験にともなう、発達的な現象への理解の深まり
- ・意外に学生だけでなく、一般の大人の方が本書を手にとってくれていた

遠見書房 シンリンラボ
私の本棚 (21)

連載 私の本棚 TEXT BY 山口智子

<https://shinrinlab.com/mybook21/>